

畜産総合研究センター令和7年度新規予定課題意見交換結果

		外部専門家氏名	糟谷 英文 橋口 昌弘 内野 宙 西浦 明子
		試験研究機関長名	島田 純
研究課題名	牛群検定の新旧指標を活用した牛群検定活用ツールの開発	研究期間	令和7~9年度
外部専門家からの意見・指摘事項	<p>&lt;意見&gt;</p> <p>○千葉県の子牛検加入率が低いことは、長年の課題ととらえている。牛群検定のメリットとしては、体細胞や乳成分のデータがすぐに見ることができる、牛の健康状態等については、自分の目で見て判断したものをあとから数字で確認できるなど非常に助かることが多いので、多くの酪農家が経営に生かしてもらいたい。会員拡大については、飼料価格高騰等の現在の酪農情勢を考えると厳しいが、今回のツール開発は、データの見やすさや、活用のしやすさにつながり、新規加入のきっかけにもなるのではないかと考えている。</p> <p>○家畜改良事業団の作るツールは全国に向けてのものなので、それが個々の経営にマッチしているかまでは対応ができない。そこで、各都道府県レベルでのこのような対応は非常にありがたく、是非取り組んでいただきたいと考えている。我々が提供しているデータを有効に活用していただきたい。</p> <p>○乳牛のエネルギーバランスを判断する新たな指標として注目されている乳中脂肪酸組成やBHB等は、繁殖性にも関連するので繁殖との関係を調べるのも面白いのではないかと考えている。また、乳期乳量だけでなく泌乳ステージ別の乳量等も検討すると面白いのではないかと考えている。</p> <p>&lt;指摘&gt;</p> <p>特になし</p>		

畜産総合研究センター令和5年度完了課題意見交換結果

		外部専門家氏名	糟谷 英文 橋口 昌弘 内野 宙 西浦 明子	
		試験研究機関長名	島田 純	
研究課題名	気候変動に対応した安定的な飼料作物栽培技術の確立		研究期間	令和3～5年度
外部専門家からの意見・指摘事項	<p>&lt;意見&gt;</p> <p>○温暖化が進む中で、今まで適切と言われていた栽培暦が変わってきているのではないかというのは、生産現場でも言われていると思うが、そういう意味できちんと試験研究からアプローチすることは、非常に重要だと思う。</p> <p>○混播の試験については、ソルガムで収量を確保するという側面もあると思うが、栄養価を考慮して、トウモロコシをしっかり取るということを検討してもよいのではないかと。</p> <p>&lt;指摘&gt;</p> <p>特になし</p>			